



8月10日は「道の日」

道路ニュース

THE ROAD NEWS No. 554
平成28年1月号

発行所 全国道路利用者会議
〒100-0013
東京都千代田区霞ヶ関3-3-1
尚友会館6階
電話 03-3501-5611(代)
発行人 和田 浩
定価 20 円(会員の購読料は会費に含む)

道路整備を積極的に推進し、国民生活の安定向上を！



古賀 誠

全国道路利用者会議会長

新しい年の幕開けに当たり、ご挨拶を申し上げます。当会議の会長に就任いたしました。初めての新年を迎えるに至りました。

役員並びに会員の皆様方におかれましては、ご健勝にて輝かしい年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。また、平素より運営及び諸活動に深いご理解と格別のご支援を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

近年は、地球温暖化の影響なのか、地球の収めなのか、自然災害が全国各地で相次ぎ、多くの国民が被害にあわれております。改めて、被災者の方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、東日本大震災から5年になろうとしておりますが、被災現場の復興状況は、まだまだ道半ばであります。これ以上時間を無駄にすることなく、具体的に復興作業を加速していくことが望まれております。いつまでも、被災者の強い前向きな心に甘えているわけには参りません。

私は30有余年の政治活動を過ごして参りました。今後とも国民の平和、国民の安寧、とりわけ心の豊かさや感謝の心を大切に子ども達が夢を育み、実現できる社会を目指して参ります。そのためには、社会資本の整備は生活の向上と安心・安全社会の実現、さらには地方の活力を生み出すために不可欠であります。そ

それぞれの地方にあった社会資本の整備を充実させ、国民一人ひとりが豊かな生活をおくれるように解決していくことが、政治の責任と使命であります。いまだ全国各地には、高規格幹線道路をはじめ、地域活動に欠かせない生活道路などの道路整備を求める声が、まだまだ絶えることなく溢れているのが現実であります。



石井 啓一

国土交通大臣

平成28年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。昨年10月に第3次安倍改造内閣が発足し、国土交通大臣を拝命しました。今年も国土交通行政に対する皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて、昨年も、9月の関東・東北豪雨など、多くの自然災害が発生しました。これらの災害により犠牲となられた方々に対して謹んで哀悼の意を表しますと、被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。被災地の皆様は、1日も早く元の暮らしを取り戻して頂くよう、引き続き総力を挙げて取り組んでまいります。

今年、国土交通省は発足から15年を迎えて、これまでの実績を糧とし、新しい時代への挑戦をスタートします。このため、私は、国土交通省の強みである現場力をしっかりと活かして、その先頭に立って諸課題に取り組んでまいります。東日本大震災からの復興について、インフラ復旧、住宅再建、高台移転などの取組を一段と加速してまいります。

常磐自動車道が昨年3月に全線開通したほか、復興道路・復興支援道路については、順次、開通予定年次

らには地域産業化を図ってまいります。

交通における安全・安心の確保は重要な課題です。踏切については、踏切事故が依然約1日に1件、約4日に1人死亡するペースで発生するなど踏切の安全確保が急務です。そのため、ソフト・ハード両面の幅広い対策を取り込んだ計画的な踏切対策を推進してまいります。

これからの社会資本整備については、厳しい財政制約の下、限られた予算を最も効果的に活用する「賢く投資・賢く使う」インフラマネジメント戦略へ転換してまいります。

まず、ストック効果の高い事業を厳選し、重点投資（「賢く投資」）していく必要があります。例えば、今春開通予定の東九州自動車道の椎田南IC～豊前IC間の開通により、宮崎と北九州が直結することは、移動時間の短縮など生産性の向上等大きな経済効果が見込まれています。

次に、既存施設を知恵と工夫により最大限活用する「賢く使う」姿勢が重要です。例えば、首都圏の高速道路における新たな料金体系の導入や、ETC2.0を活用した効率的な道路利用を推進してまいります。

三大都市圏環状道路については、来年度に、圏央道の境古河IC～つくば中央IC間が開通することで、湘南から成田空港まで接続されるなど、引き続き、着実に整備を進めてまいります。

新しい年が皆様方にとりまして希望に満ちた、大いなる発展の年になりますことを祈念いたします。（国土交通大臣年頭挨拶より抜粋）

道路関係予算総括表

(単位：億円)			
	H28 決定額 (A)	前年度 (B)	倍率 (A/B)
直轄事業	15,632	15,691	1.00
改築その他	11,244	11,522	0.98
維持修繕	3,202	2,965	1.08
諸費等	1,185	1,204	0.98
補助事業	753	686	1.10
地域高規格道路等	491	485	1.01
地域高規格道路 IC アクセス道路	70	-	皆増
大規模修繕・更新	45	45	1.00
除雪	104	101	1.03
補助率差額等	43	55	0.78
有料道路事業等	252	225	1.12
合計	16,637	16,602	1.00

※ この他に、社会資本整備総合交付金(国費 8,983 億円)、防災・安全交付金(国費 11,002 億円)があり、地方の要望に応じて道路整備に充てることができる。

※ この他に、東日本大震災からの復旧・復興対策事業として国費 2,376 億円がある。また、東日本大震災からの復旧・復興対策事業として社会資本整備総合交付金等があり、地方の要望に応じて道路整備に充てることができる。

注1. 上記の他に、行政部費(国費 8 億円)がある。

注2. 直轄事業の国費には、地方公共団体の直轄事業負担金(2,994 億円)を含む。

注3. 四捨五入の関係で、各計数の和が一致しないところがある。

平成28年度

道路局関係予算決定概要

昨年12月24日に、政府は平成28年度予算を閣議決定した。

平成28年度道路関係予算は、1兆6,637億円(対前年比1.00%)で、復興道路・復興支援道路の緊急整備を始めとする東日本大震災からの復興加速、

平成28年2月13日(土)15時

新東名高速道路 浜松いなさJCT～豊田東JCT間

～つながるダブルネットワーク～

の浜松いなさJCTから豊田東JCTが2月13日(土)15時に開通する。

今回の開通により、新東名高速道路は、2012年に開通している御殿場JCTから浜松いなさJCTと合わせて延長約200kmが開通し、この間で東名高速道路とダブルネットワークを形成することになる。

これにより、東名高速の渋滞緩和、ダブルネットワーク化による信頼性の向上、日本の大動脈としての三大都市圏の連携強化などの効果が期待される。

また、沿線では、工場用地・工業団地などの企業立地の促進や、奥三河地域への日帰り観光圏の拡大など、地域の活性化が期待される。

NEXCO中日本が2月中の開通を目指して建設を進めてきた新東名高速道路

平成27年度「道路ふれあい月間」推進標語

『道路がもっとつながる』

贈り物

【開通日】平成28年2月13日(土)15時

【開通区間】新東名高速道路(浜松いなさJCT～豊田東JCT)

【開通効果】①東名の慢性的な渋滞が大幅に緩和

②所要時間の短縮と定時性の確保

③物流の効率化を支援

④工場立地の促進

⑤奥三河地域への日帰り観光圏が拡大

⑥大規模災害時の早期復旧への貢献

⑦大規模更新工事による交通への影響を軽減

詳しくは <https://shintomei.jp/>

“道路総合システムサービス”企業



NICHIREKI

二チレキ株式会社

東京都千代田区九段北4-3-29 TEL 03(3265)1511代表

道路施設の老朽化対策や代替性確保ネットワーク整備などによる国民の安全・安心の確保、道の駅やスマートIC等の活用による拠点の形成や道路ネットワークによる地域・拠点の連携確保などによる地域の活性化、物流ネットワークの整備などによる国際競争力の強化に重点的に取り組むとしている。